



特集
来てよかった、また来たいまちへ

ひかり 観光を灯す人



このまちには、人々を魅了する豊かな観光資源がある。このまちの観光を考える上で忘れてはならないのが、まちの観光を絶やさぬよう力を尽くし、支えてきた人々たち。
今回は、観光でまちを元気にするために、さらなる「もてなしの磨き上げ」に挑む人たちに光を当てていきたい。

人がつなぐ まちのもてなし

本市は、歴史ある温泉や四季折々の自然に溢れ、生産額本州一位の生乳に代表されるように乳製品やブランド肉・野菜など、食にも恵まれています。こうした豊富な観光資源は、まちの人たちの努力によって支えられてきました。温泉を守る旅館の人や、地元食材を活かし腕を振るう料理人、そして質の高い食材を作り続ける生産者の人など、観光に関わりのある人は多岐にわたります。さまざまな人の結びつきがあって、このまちの観光は成り立っています。

そんな中、19年ぶりに巡ってきたJRグループの大型観光企画「デスティネーションキャンペーン(DC)」を巻き込んだ企画が動き出します。皆さんも一緒にDCに参加して、まちを盛り上げていきませんか。

日頃の活躍をたたえて

～市長特別賞を贈呈～

文化や環境保全、スポーツなど、各方面で全国を舞台に市民の皆さんが活躍しています。日頃の皆さんの活躍をたたえて、市長特別賞が贈られました。

問い合わせ
秘書課
☎0287(62)7108

プロの盆栽作家がその技術を競い合う「第43回日本盆栽作風展」。この最高峰の作品展で、市内で盆栽園を営む藤川政幸さんが、最高賞の内閣総理大臣賞を県内で初めて受賞した。この快挙に市長特別賞が贈られた。

受賞作の「鳳凰」は樹齢1200年くらいのエゾマツで、15年程管理を続けている。藤川さんは、「この木は自分を育ててくれた。とても感謝している。これからも、今以上の評価が得られるように挑戦していきたい」と嬉しそうに話してくれた。

市内の盆栽園「藤川鳳凰園」代表。盆栽園を営む父の影響で、20歳から盆栽の修行を始める。30歳で家業を継ぐと、市内の愛好家が所有するエゾマツに出会い管理を託される。以後、丹精に育てあげ、今回の受賞となった。



藤川 政幸さん

株式会社パン・アキモトが展開している「救缶鳥プロジェクト」。災害時の備蓄用として販売したパンの缶詰を賞味期限が切れる1年前に回収し、新しい商品を割引で届けるとともに回収した缶詰は海外で食糧を必要としている地域に届けている。この取り組みが環境省主催の「第5回グッドライフアワード」で環境大臣賞最優秀賞を受賞したことに伴い、市長特別賞が贈られた。

同社の秋元社長は、「これらの賞は、社員たちにとって大きな励みになる」と満面の笑みで答えてくれた。

昭和22年創業のパン店の老舗。阪神淡路大震災をきっかけに柔らかなパンが長期間保存できる「パンの缶詰」を開発。広く災害備蓄品として受け入れられている。また、同社のチャレンジする様子が児童書で紹介された。



株式会社
パン・アキモト

全国学校・園庭ビオトープコンクールで、県立那須拓陽高等学校が県内で初めて環境大臣賞を受賞し、その栄誉をたたえて市長特別賞が贈られた。

同校のビオトープは那須疏水の水を敷地内の池に引き込み、水田に水を供給するもの。また、ミヤコタナゴが再び生息できる環境を取り戻すための試みも続いている。市役所を訪れた生徒たちは「先輩から引き継いだこの試み、自分たちができることをやり、後輩に引き継ぎたい」と語ってくれた。

県立那須拓陽高等学校では平成23年度から同校の大山農場内で水稻の有機栽培を開始した。これに伴い、敷地内に埋もれていた池を復活させ、かつて多く生息していたミヤコタナゴが再び生息できる環境を作ろうと生徒たちは日々努力を重ねている。



栃木県立
那須拓陽高等学校